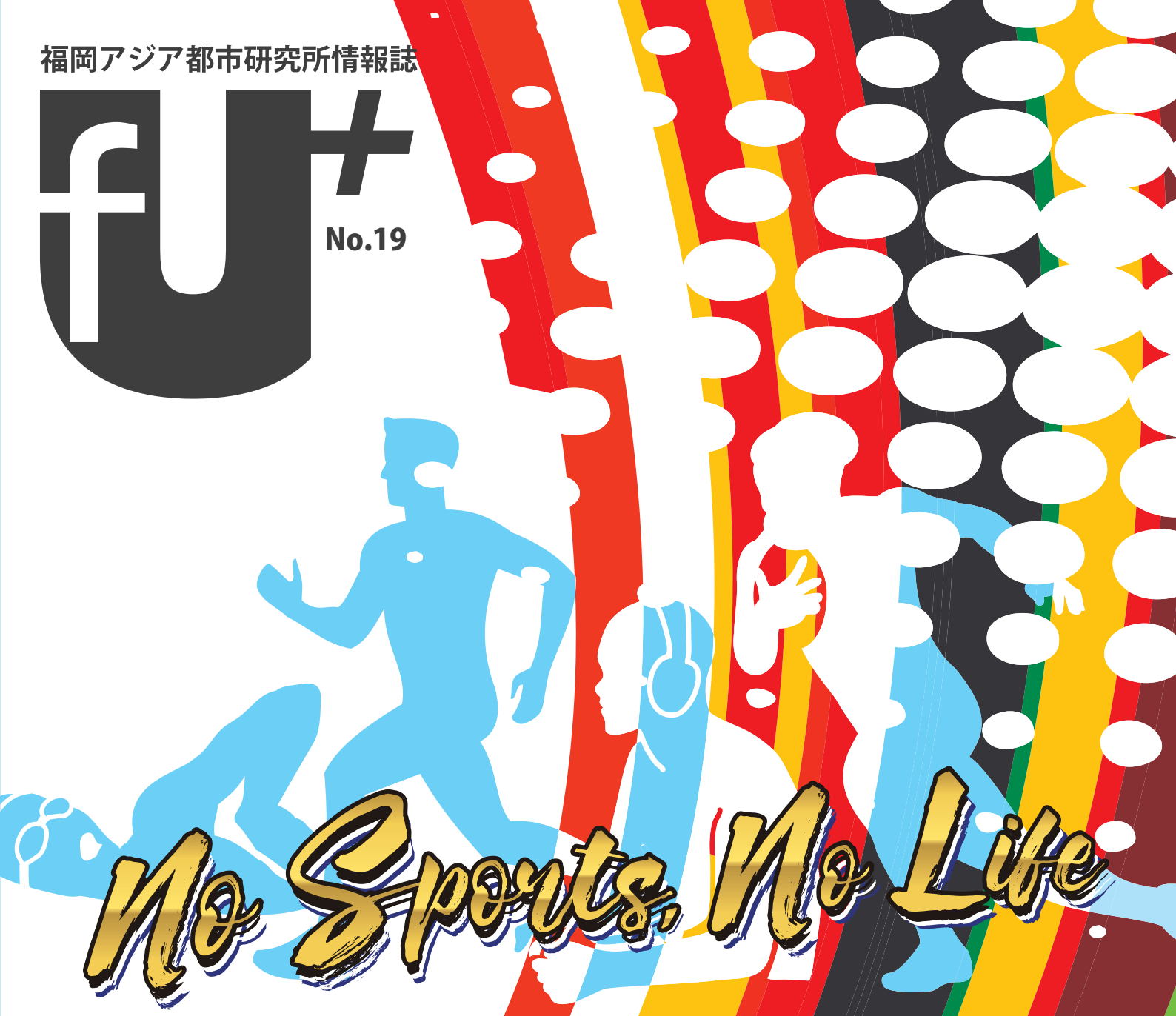
福岡アジア都市研究所情報誌

# f+

No.19



# No Sports, No Life

インタビュー

**川森 敬史**

**上林 功**

**岡村 秀樹**

**【福岡市総合体育館】**
地域とつながり、あらゆる人が集う新しい体育館に

**【ラグビー】**
世界最高峰のラグビーが福岡で観戦できる!

**【オリンピック】**
2020年東京オリンピックを福岡から盛り上げる

**【水泳】**
福岡に世界水泳選手権が帰ってくる!

**【マラソン】**
地域に根付いた福岡マラソン!
秋の風物詩となるべく、さらなる進化を図る

**【eスポーツ】**
世界で急速に広まる「eスポーツ」が福岡にも!

アジアのリーダー都市へ FUKUOKA NEXT

アジアのリーダー都市へ
FUKUOKA NEXT

CONTENTS

# 特集 No Sports, No Life 福岡×スポーツ


2-3 巻頭メッセージ
国際スポーツ都市“福岡”
～スポーツを都市の魅力向上と
市民の活力に～
福岡市長　高島 宗一郎

4-5 市民クラブとしてスポーツを通じた
豊かなコミュニティーづくり
アビスパ福岡株式会社 代表取締役社長　川森 敬史

6-7 広く共存し合える空間づくり
～スポーツ施設を基点に生まれる街の形～
追手門学院大学社会学部准教授
株式会社スポーツファシリティ研究所 代表　上林 功

8-9 世界が熱狂するeスポーツを日本でも
「ゲーム＝スポーツ」という
正しい認識への道筋
一般社団法人日本eスポーツ連合（JeSU）会長（代表理事）
岡村 秀樹

10-11 地域と結びつくスポーツ活動
プロスポーツの地方展開による
“脱・東京一極集中”モデル
(公財)福岡アジア都市研究所 情報戦略室
畠山 尚久

12-13 特集 No Sports, No Life
福岡×スポーツ

14-15 地域とつながり、
あらゆる人が集う新しい体育館に
福岡市総合体育館

16 【ラグビー】
世界最高峰のラグビーが福岡で観戦できる!

17 【オリンピック】
2020年東京オリンピックを福岡から盛り上げる

18 【水泳】 福岡に世界水泳選手権が帰ってくる!

19 【マラソン】
地域に根付いた福岡マラソン!
秋の風物詩となるべく、さらなる進化を図る!

20-21 世界で急速に広まる「eスポーツ」が福岡にも!


写真提供：福岡市

# 国際スポーツ都市“福岡”
## ～スポーツを都市の魅力向上と市民の

### 始まりはユニバーシアード競技大会

福岡市の国際スポーツ都市としての歩みは、1995年の「第18回ユニバーシアード競技大会」から始まりました。

小学校区ごとに担当する国・地域を決めて応援や選手との交流を行う「校区ふれあい事業」の実施や、多くのボランティアの参加など、市民と一体となって大会を大成功に導きました。

大会を通じて、市民の国際交流意識の醸成や市政への主体的参加を誘発するとともに、国際社会におけるプレゼンスの向上、都市基盤の整備、大規模スポーツ大会運営のノウハウ蓄積など、その後の国際スポーツ大会の積極的な誘致・開催や市民スポーツの普及・振興につながる多くの成果を得ることができました。

▲1995年ユニバーシアード競技大会開会式
（西日本新聞社 写真提供）

### レガシーとして

ユニバーシアード大会の成功を単発のものとして終わらせることなく、1995年「国際スポーツ都市宣言」、翌1996年にはスポーツ振興基金を設置し、国際スポーツ大会の積極的な誘致などを進め、大会を機に整備した博多の森球技場（現：レベルファイブスタジアム）を本拠地としたアビスパ福岡の誕生や、2001年世界水泳選手権、2013/2014世界フィギュアスケート・グランプリファイナルの開催などにつなげています。

世界水泳では、マリンメッセ福岡をメイン会場にして、世界で初めて仮設の50m公認プールを使用し、大規模な施設整備を伴わない手法は、後年のロールモデルとなりました。

▲2001年世界水泳選手権開会式

# 活力に～

福岡市長　高島 宗一郎

## スポーツ拠点施設がオープン

2018年12月、アイランドシティに福岡市総合体育館がオープンしました。この総合体育館は、西日本最大級の面積を誇るメインアリーナを備え、車いすの方も観戦しやすい観客席、高齢者や障がい者の方にも使いやすいトレーニングマシンなどユニバーサルデザインを導入した施設になっており、今後、福岡市のスポーツ施設の拠点として、多くの市民の利用が期待されています。

▲2018年福岡市総合体育館がオープン

## 大規模な国際スポーツ大会が目白押し

福岡市では、今年2019年は大規模な国際スポーツ大会が連続して開催されます。

最初が2月に開催される「EVO Japan 2019」です。世界で盛り上がりを見せるデジタルゲーム競技「eスポーツ」の世界最大規模の国際大会が、ゲーム産業が根付いてきた福岡市で開催されることは非常に感慨深いものがあります。

次が4月の世界フィギュアスケート国別対抗戦、そして9月からのラグビーワールドカップと、世界の一流選手の卓越した技術や表現力に直に接し、感じることができる、楽しみな1年となります。

2021年には20年ぶり2回目となる世界水泳選手権の開催が控えており、忘れられない興奮をまた目にすることができることに心が躍ります。

こうした大規模スポーツ大会の開催は、市民スポーツの裾野を広げ、次の世代を担う子どもたちに夢と希望を与える機会を創出するとともに、国内外から多くの方が訪れることで、大きな経済波及効果が期待されます。

国際的にも大きな注目を集める機会を捉え、市民の皆さんとともに「人と環境と都市活力の調和のとれたアジアのリーダー都市」を目指して、福岡市の魅力を世界に発信していきたいと思います。

▲ラグビーワールドカップ2015イングランド大会

インタビュー

# 市民クラブとして スポーツを通じた豊かなコミュニティーづくり

**全国各地には、大小多くのサッカークラブチームが点在している。4年に1度のワールドカップでは、多くの国民が歓喜し盛り上がるが、根強いサポーターを持つJリーグのチームが、地域に対してどのような活動をしているか知る人は少ない。市民クラブとしてスポーツとのつながりを強め、街を活性化させるためにアビスパ福岡ができることとは何か、アビスパ福岡の川森社長に伺いました。**

## 裾野を広げる 新たな活動を始めたアビスパ福岡

世界には地域によって根付いているスポーツが様々ありますが、ヨーロッパでは街の大半の子どもが地元クラブチームのスクールに入っていたり、平日の夜9時、10時からプレーが開始するスポーツ観戦をしたり、土日は自分たちがスポーツをするというような習慣があり、日本の文化と全く違います。同じようなスポーツをしている人が街に増えると、それが文化となってきます。日本では、サッカーもあれば、野球、剣道、柔道、ゴルフ、レスリングなど多種多様なスポーツが街に溢れています。スポーツを楽しむという意味ではいろいろなものが整っていて環境としては良いのでしょうが、地域の文化となる代表的なスポーツが突出しづらい環境にあります。日本ファイナンシャル・プランナーズ協会の調査によると、“将来なりたいスポーツ職業”では、野球選手よりサッカー選手が多く、子どもたちの関心は高いんです。そのような背景もあり、アビスパ福岡はスポーツ文化の振興にも努めています。

1500人ほどのスクール生が各地域で活動しているスクール活動や、地元市区町村と連携して実施するホームタウン活動などについては、新聞などの記事にあまり載らないため市民の皆さんへ伝える場がありません。そこで、4年前から「オール福岡」というキーワードを打ち出し、「AGA（アビスパグローバルアソシエイツ）」という団体を立ち上げました。約130社ある理事や役員企業の方を対象に開く毎月の会合での意見交換や、無料のメールマガジン「AGA通信」でクラブ活動の情報発信をしたりしています。また、福岡都市圏広域行政推進協議会や、大学などの学校法人とのネットワーク作りなど、各方面に裾野を広げています。

▲アビスパグローバルアソシエイツの会合の様子

## サッカーを通した コミュニケーション作り

アビスパ福岡は、小学校4年生から高校3年生までを対象に、ひとりの選手、ひとりの人間として人材育成をするアカデミーを運営しています。その特徴として、アカデミーでは年に2回、保護者の会というのを開いています。年代別の会合には1回で70〜80人集まって、子どもたちのことやクラブのことを一問一答したり、説明をしたりしますが、保護者会が終わっても、会話が弾んで30分以上解散しないことがあり、子どもだけでなく、保護者同士のコミュニケーションも濃くなっています。また、地元市区町村と連携して家族間でのコミュニケーション強化を目的に、レベルファイブスタジアムの試合前に親子サッカー教室を開いて、手つなぎサッカーといった子どもと手をつないでゴールを目指すということをしています。許可が出れば、裸足でやったりもしています。レベルファイブスタジアムのピッチは何も異物がない状態ですから、全ての方に貴金属は外していただきますが、裸足でピッチに立つというのは、優越感と気持ち良さがあります。そういう企画を試合前に行って、その後に観戦という流れを作りながら、“サッカーを見る”だけでなく“サッカーをする”という体験を同時に行い、より多くの方にスタジアムへ足を運んでいただける仕掛け作りをしています。

2018年のクラブスローガン“感動と勝ちにこだわる”を目標に、ベストを尽くして、人の心を揺さぶるような熱いプレーで、地域のみなさんに誇りを持っていただける市民クラブにしたいと思います。勝つというのは、試合の勝負だけでなく、ファン・サポーターのみなさまをはじめ、お客様の心に響く対応を実践し、レベルファイブスタジアムに１試合1万人という目標数値に勝つ（達成）という意味もあります。

サッカーは守備と攻撃が常に入れ替わり、試合中ずっと応援します。スタジアムの観客数が選手にとって大きく影響してきますので、一人でも多くの方に足を運んで応援いただけるチームになりたいと思います。

アビスパ福岡株式会社　代表取締役社長
かわもり　たかし
# 川森 敬史

1965年東京都生まれ。2003年株式会社アパマンショップネットワーク(現APAMAN株式会社)に入社後、同社常務取締役(現任)。その後、Apaman Network株式会社、株式会社あるあるCity代表取締役社長を歴任。2014年、APAMANグループによるアビスパ福岡株式会社への出資が決定し、2015年より、アビスパ福岡株式会社にて代表取締役社長に就任する。

## 豊かな地域づくりに貢献

アビスパ福岡の経営理念には、サッカークラブでありながら“サッカー”の文字はありません。これはサッカーに限らず、スポーツを通じて地域の活性化を図ろうという思いがあるからです。地域の活性化を図るうえで大切なホームタウン活動は、子どもから大人までを対象にしたサッカースクールのほか、ジュニアを対象にしたチアリーダースクールや介護予防事業、座学など年間1675回開催し、延べ3万1000人の方に参加して頂いています。さらに、3世代が交流できるスポーツフェスタのようなものを自治体からお任せ頂いています。そこではボールを使った競技も行いますが、基本的には参加者同士が協力し合い優勝を目指すといった、子どもからシニアまで参加できるような優しい運動ものを行っています。体を動かすというのは心身ともに健康になるだけでなく、街の中で顔見知りが世代を越えてできます。そういったイベントが街の中で溢れるようになると、健全な街づくりに貢献できます。さらにコミュニケーションを取りながら、家族や地域の人と一緒にスポーツをすることで、誰かが失敗しても声を出してカバーするといった思いやりを持つことなど、スポーツは人格を形成する上でプラス面が大きいと思います。社会では年齢、立場を超えた多くの人と複雑に関わり合いながら生活しています。人と関わり合いながらコミュニケーションを取り、豊かなコミュニティーが街に根付いていく。その醸成に、アビスパ福岡は、市民クラブとして活動するだけでなく、地域づくりとしてホームタウン活動を含む様々な形で寄与していきたいです。

▲アビチアの皆さま

▲親子サッカーイベントの様子

▲シニア世代の皆さまとの交流

インタビュー

# 広く共存し合える空間づくり ～スポーツ施設を基点に生まれる街の形～

**2020年に東京オリンピック・パラリンピックを控え、それに伴いスタジアムを含む新たなスポーツ施設の建設が急ピッチで進められている。しかし、日常的にスポーツを体感できるようになるのは、なかなか難しい。株式会社スポーツファシリティ研究所代表の上林氏が考える“スタジアムの在り方”について語って頂きました。**

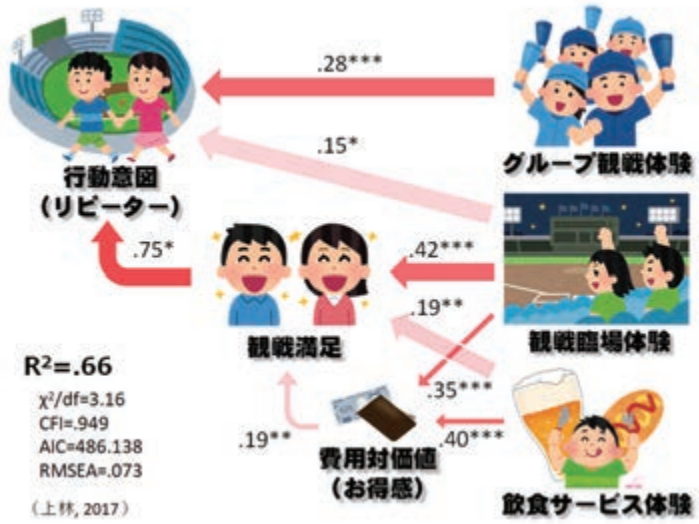
## スポーツ観戦の満足感とは

私は大学院を卒業後の2003年以降、設計事務所の環境デザイン研究所に所属し、スポーツ施設の設計をしていました。事務所を主宰する環境建築家の仙田満氏から「自分の発想を実現したいという理想があるならば、クライアントと共に寄り添って、提案できる立場になりなさい。」とよく言われていました。その考えを受けて独立し、今では日本で唯一のスポーツ施設専門のコンサルティングを行っています。

スポーツ施設の観客席はエリアによって価格が違いますが、概ねスポーツチームのチケット担当者が決めています。一方、そもそも観客席のカタチは施設の建築構造に依存していることもあり、ピッチやコートからの観客席の距離、観戦に適した勾配など最適化されていない場合が多いのです。施設と観戦者の満足や消費行動との相関関係を研究から、スポーツ観戦を最高にする観客席のカタチについて解き明かそうとしています。

例えば、グループ観戦や臨場感、飲食サービスが、観戦満足度とリピート行動にどう関係するのか西武ドームで４年間かけて調べました。スタジアムの臨場感の体験から観戦に満足してリピーターになった人が全体の約31%でした。一方、観戦に満足したかどうかに関係なく、家族や友人たちとのグループ観戦の体験からリピーターになったという人は約28%でした。これまで、スタジアムでは前列ほどチケット価格が高く、臨場感の体験に対する評価が重要視されてきましたが、グループ観戦の体験が臨場感の生み出すリピート率に近い影響力を持ち、なおかつスポーツ観戦の満足・不満足に関わらず、もう一度球場に来たい、との気持ちを促すことが示されました。

近年、某不動産デベロッパーが、2000年代生まれの人たちに、スポーツに興味があるか調べたところ、“スタジアムに観戦しに行きたいと思う人”は約20%しかいなかったのに対し、“スポーツバーなどパブリックビューイングに行きたいと思う人”は、約80%にのぼったそうです。しっかりスポーツを観戦するというより、グループ観戦のような、“皆で共有すること”への価値観がはっきりしてきたといえるのではないでしょうか。




▲スタジアム観戦者の体験-行動モデル

## 公園と一体となり、観戦しながら楽しむスタジアム

海外では、街中の公園と一体となったスタジアムが作られています。例えば、サンディエゴにあるペトコ・パークという有名な野球場は、ライトスタンドの後方が大きな芝生公園のようになっており、野球を見ずに雑誌を読んで過ごしている人もいます。また、サンノゼにあるアバイア・スタジアムというサッカースタジアムでは、ピッチを囲っている観客席の1面をバーベキュー広場にしてしまい、試合経過が分かる電光掲示板も設置して、観客は試合を見ながら食事ができるようになっています。きちんと席に着いて3～4時間観戦するのは、窮屈に感じる人がいることもありますが、皆でスポーツを楽しむことを共有するには、整然と並んだ観客席では不適当なのかもしれません。スタジアムのなかにあって、場所そのものを皆で共有できるセミ・パブリック（半公共的）なスペースが生まれてきています。

福岡で施設と公園などの公共空間が一体となった場所と言えば、アクロス福岡です。天神中央公園の緑がアクロス福岡の最上階まで連続して見えるステップガーデンが広がります。エミリオ・アンバースさんという有名な建築家が基本構想をデザインしたもので、目の前の公園と一体となったアクロス

追手門学院大学社会学部准教授・株式会社スポーツファシリティ研究所代表

うえばやし　いさお
# 上林 功

兵庫県神戸市出身で、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科修了。建築に関して学びながら工学修士を取得。2003年以降、環境建築家・仙田満に師事。10年間、スポーツ施設を設計し続け、その後早稲田大学大学院スポーツ科学研究科へ。在学中に独立し、株式会社スポーツファシリティ研究所を設立。2017年博士を取得し2018年より現職。最近では、スポーツ庁や経済産業省委員のほか、早稲田大学スポーツビジネス研究所の招聘研究員、慶應大学大学院メディアデザイン研究所リサーチャー、日本政策投資銀行スマート・ベニュー研究会委員なども務める。

福岡の斜面は公共空間と建築そのものが馴染むような形になっています。福岡ではこうした公共空間と一体となった環境がいくつか見られ、他には、福岡銀行本店１階に、コンサートが開催できるパブリックスペースや、天神地下街も、建物と公共空間という境目がなく、一体となっています。このような空間に、実際に立ち寄り、多くの人と共有できる場所が複数あるというのは、福岡らしさと言えるかもしれません。建築が街に溶け込んでいって、街そのものが建築になっていく、施設という枠を越えた世界が、福岡にはたくさんあり魅力的だと思います。

▲施設と公共空間が一体となる福岡の建築

## スポーツ施設がブランディングとなる新たな街づくり

私は設計事務所時代、広島のマツダスタジアムの設計に携わりました。マツダスタジアムは、JR・新幹線の駅のすぐ近いエリアに位置し、広島駅から伸びた道路がスタジアムに向かって緩やかなスロープとなって上っていき、到着します。コンコースが一周フラットに回れるようになっていて、年に数回ある一般開放では、誰でもスタジアム内部をまわることができます。スタジアムの周囲にはランニングロードが設けられ、言わばスタジアム全体が立体公園みたいにつくられています。一般的なスタジアムでは、シーズン中は試合があるので賑わいますが、試合がなく利用していないときは、広大な空き地となります。そこで、マツダスタジアムは周りの施設と親和性が高いように配置、デザインしています。さらに街全体のブランディングとしてダイナミックボールパークを掲げ、建物だけに完結した機能を持たせるのではなく周辺のものと境目を曖昧にすることで人の流動性を高め、広範囲に人が行き来するための仕掛け作りをおこないました。マツダスタジアムは境界線が曖昧で、遊んでいる人もいれば買い物をしている人もいます。また市内駐車場を利用して市電で観戦にくる来場者も多く、街中を移動して遊びに来るなどスタジアムが街全体に広がっているかのようです。

従来のスタジアムは壁に囲われ閉じた構造になっていたのはチケット管理の問題が大きいと言われます。事前にペーパーチケットを購入し、入口でチケットを渡すのが当たり前で、はっきりと内外を分ける境界をつくる必要がありました。今後は例えばこのエリアに入るときに、ウェアラブルデバイスをつけてもらって、入れる人と入れない人を判別するなど、IoT技術の活用で来場者を管理するということもできるようになるでしょう。スタジアムをよりオープンに管理できることでまるでお祭りの縁日に立ち寄るように、ちょうど近くで試合が行われているから、と気軽に行く人も出てくるかもしれません。その場所に人を集めたり拡散したりすることが、より簡単にできるようになってきています。多くの来場者をコントロールできないがために、郊外などに追いやられていたスタジアムも、より身近に感じられる立地に建てることもできそうです。今後も、その街自体のブランディング含めたスポーツ施設の在り方を提案していきたいと思います。

▲街とつながるマツダスタジアム

インタビュー

# 世界が熱狂するeスポーツを日本でも「ゲーム=スポーツ」という正しい認識への道筋

**ビデオゲームの技術を競うeスポーツ。世界の至るところで大会が行われ、多くを熱狂させる一大コンテンツであるものの、日本での認知度はまだ高くない。eスポーツはなぜ日本で市民権を得られていないのだろうか？　一般社団法人日本eスポーツ連合の会長である岡村秀樹氏に、日本におけるeスポーツの現状から今後の展望についてお話しいただきました。**

## 日本におけるeスポーツの課題は海外との認識の隔たり

eスポーツ（エレクトロニック・スポーツの略称）は、ビデオゲームで技術を競うれっきとしたスポーツであり、世界での競技人口は1億人を超えるとも言われています。しかし、日本ではその知名度がとても低い。若い人でも知らないのが現状です。

日本ではなぜ、eスポーツの認知度が低いのか？　日本と海外における、ビデオゲームの歴史を振り返ると、それが見えてきます。

日本でビデオゲームといえば、「ファミリーコンピュータ」といったコンソールゲームを思い浮かべる人が多いのではないでしょうか。登場したばかりの頃のコンソールゲームは、友だちや家族とリビングでわいわい楽しむものでした。一方の海外では、コンソールゲームが普及する一方で、パソコンでゲームを楽しむ文化も広がりました。

やがてインターネットが普及すると、海外ではオンライン上でゲームを楽しむようになっていったわけですが、日本ではローカルな楽しみ方も根強かった。そして前者は「見知らぬ誰かと技術を競って（戦って）楽しむもの」、後者は「みんなで楽しむもの」という文化が、それぞれ確立されました。

それが今や、コンソールやスマホにおけるネットワークインフラも整ったことで、グローバルな対戦や協力が、日本でも当たり前になりました。どちらも楽しむということに違いはありませんが、eスポーツの原点である技術を競い合う楽しみ方は、海外では日本よりも前から、主流となっていたわけです。

また、チェスが「マインドスポーツ」と呼ばれるように「スポーツ」には「娯楽」と「チャンピオンシップ（技術を競う）」という2つの面があります。しかし日本では、体を動かすことがスポーツの条件であるという思想が根強いのも、eスポーツの認知度が低い要因なのではないでしょうか。

世界的に見た場合、eスポーツはサッカーなどのメジャースポーツと同等の認知度があるとされています。しかし日本の多くの人の間では、「ビデオゲーム」と「スポーツ」がいまいちつながらない。海外との、この認識のギャップが日本における課題。そのミッションに取り組むべく生まれたのが、JeSU（一般社団法人日本eスポーツ連合）なのです。

## JeSUが担うのは認知度の向上と公平性の確保

JeSUが定義する「eスポーツ」とは、ビデオゲームが備える技術を競う「チャンピオンシップ」としての側面です。その普及に当たって重要なのは2つ。「選手の育成」と「活躍場所の提供」です。後者の具体的な活動としては「オフィシャリティが高い大会の開催」と、言えるでしょう。

オフィシャリティの高い大会がなぜ必要かというと、スポーツマンシップも含め、eスポーツが健全な精神の育成に役立つ可能性を秘めており、その実現は、ビデオゲームが社会に貢献するとともに、市民権を得るのにつながります。そのため我々の理念は「スポーツ基本法」に則ったものです。オフィシャリティの高い大会が増えていけば、eスポーツへの正しい理解や認知が、日本でも深まっていくと考えています。

北京大学ではeスポーツの研究がされていますし、アメリカのユタ大学ではeスポーツプレイヤーを対象とした奨学金制度が存在します。そんな世界の潮流に鑑みると、日本で高校の正式な部活として認められてもおかしくありません。我々はその実現に向けて動いている最中ですが、そのためには一方で、行政や政治家の皆さんに「eスポーツとは何か」あるいは「eスポーツの世界標準」を、正しく理解していただく必要があります。eスポーツに取り組む人たち、それを職業にしようとして

一般社団法人日本eスポーツ連合（JeSU）会長（代表理事）
岡村（おかむら） 秀樹（ひでき）

東京都生まれ。1987年にセガ（現：株式会社セガゲームス）に入社し、2015年に株式会社セガホールディングスの代表取締役社長に就任。そのほか、様々な役職を兼任し、2018年2月に立ち上がった日本eスポーツ連合では会長を務める。

いる人たちが正しく認められ、プライドを持って活動できる社会を、官民一体となって作っていかなければいけません。

ではeスポーツの普及に当たって、具体的に我々はどんなことを施策しているのかというと、一つはライセンス制の導入です。

現在の日本に、eスポーツが社会的に認められるための追い風が吹いていると感じます。ただし、社会的に認められるということは、同時に責任もついて回ります。日本でも、主に民間が主導するeスポーツの賞金付き大会は、以前から存在しており、ゲーム産業やeスポーツの発展のため、今後もどんどん出てくるべきでしょう。しかしそこには、公平性や清廉性が不可欠なのです。

我々が発行するライセンスが影響を与えるものとして「ゲームタイトル」、「大会」、「人」の3つの立場のものが存在します。ライセンスを発行することによって、それぞれがオフィシャルである、すなわち公正であることを保証するのが重要な役割の一つになります。そのほかに、人を対象とするライセンス発行の意義として「強化選手のリスト化」があります。例えば今後、eスポーツが正式にオリンピック競技となった場合、日本代表選手を選ぶ必要があります。プロライセンスによる強化選手のリスト化は、そういったときに役立つと考えています。ただしプロライセンスの発行は強制ではないので、「プロライセンスはいらない。賞金だけ欲しい」という方がいても全く問題ありません。ちなみに、プロライセンスの発行を拒否された方は、これまで一人もいません。それは、プロライセンスにある種のステータスとしての側面があるからかもしれません。

こうした流れが積み重なれば、世界と戦えるプレイヤーがどんどん登場し、また、eスポーツの社会的な地位を高めていけると考えています。

JeSU
Japan eSports Union

## eスポーツの未来とゲーム都市福岡への期待

2017年4月、アジアオリンピック評議会は、2022年のアジア競技大会において、eスポーツを正式種目にすると発表しました。こうなるともう「eスポーツって何？」とは言っていられない。海外でそれだけのポピュラリティを備えており、発展の可能性をまだまだ秘めているのに、日本だけが無視するわけにはいかないでしょう。その後、2018年6月15日に政府が閣議決定した「未来投資戦略2018」における「経済構造革新への基盤づくり」には、「新たな成長領域として注目されるeスポーツについて、健全な発展のための適切な環境整備に取り組む」という一文が明記されています。ここには当然ながら、eスポーツの地位向上も含まれていると考えるのが妥当です。

福岡市は、2006年に「ゲーム都市宣言」を出していますね。これはゲームファンだけでなく、開発会社やパブリッシャーにとっても優しい街を目指すとのこと。そういった熱い思いを持った自治体と協力して、eスポーツの地位向上、そしてゲーム業界がこれまで以上に盛り上がっていければ素晴らしいですよね。福岡市にはぜひ、eスポーツ普及の旗手となってもらいたいというのが、JeSUとしての思いです。

No Sports, No Life データは語る

# 地域と結びつくスポーツ活動

## プロスポーツの地方展開による"脱・東京一極集中"モデル

(公財)福岡アジア都市研究所 情報戦略室 畠山 尚久

スポーツ基本法の前文に「スポーツは、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠」とあるように、適度なスポーツ活動は、健康増進に効果的であることは広く知られています。同時に、スポーツは、「見る」楽しみもあり、エンターテインメントとして興奮や刺激を感じ、ストレスの解消につながることもあります。

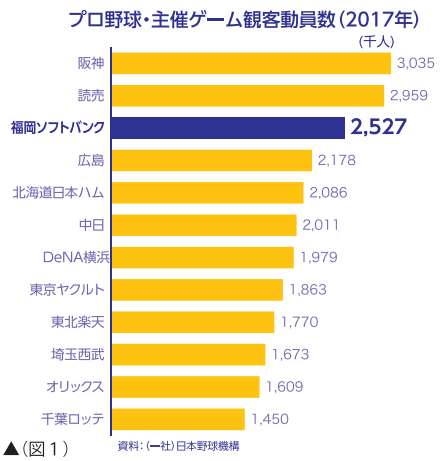
スポーツの持つ可能性は、多様で大きく、地域のコミュニティ形成や活性化を探る上でも、多くのヒントを与えてくれます。

### 充実のプロスポーツ観戦環境とその効果

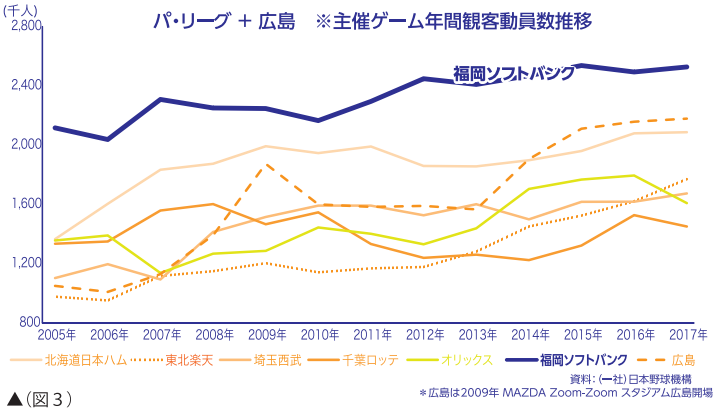
福岡市は、「見る」スポーツの環境には恵まれており、プロ野球・福岡ソフトバンクホークスやサッカーJリーグ・アビスパ福岡などのプロスポーツチームが福岡市を本拠地としており、毎年多くの人がスタジアムなどで観戦しています。福岡ソフトバンクホークスは、年間250万人を超える人がスタジアムに足を運んでおり、阪神、巨人に次ぐ多さで、パ・リーグ最多を誇ります(図1・図2)。

こうしたプロチームの存在は、試合時の集客や消費などの経済波及効果がシーズンを通してもたらされ、福岡県の試算によると、2017年の日本シリーズでホークスが日本一になった際だけでも、経済効果は400億円を超えるとされました。

このほか、市民が身近に高い技術を持つプロスポーツに接することで、スポーツ競技への関心や参加が促されるほか、観戦を通した仲間との交流が盛んになるなど、さまざまな社会的な効果ももたらされます。




▲(図1)



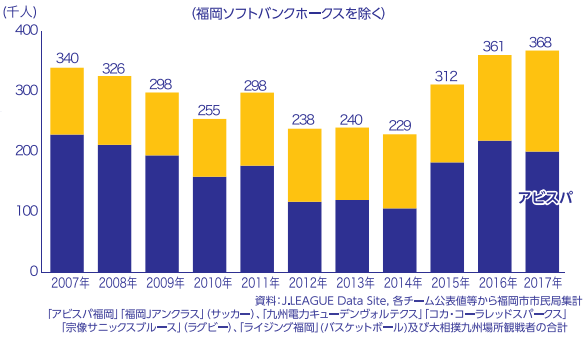

▲(図3)

### 地方都市とプロチームの相互関係

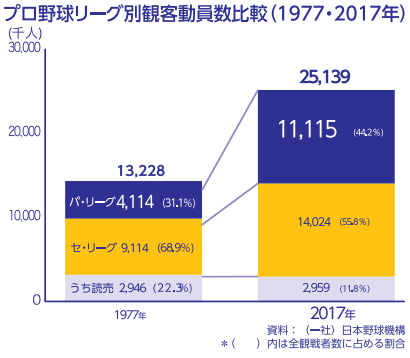
プロスポーツチームの存在によって、地域経済が潤う効果が得られる一方で、プロチームにとっても、地域との結びつきが、固定ファンの拡大による観戦やグッズ販売等の収入増、選手、スタッフなどの人材の確保・育成の面からもメリットが大きくなります。プロスポーツチームが地域に根ざして、市民とともに盛り上がることで、各地域において、東京一極集中とは逆の、地域の独立した相互関係が構築されます。

プロ野球を例にみると、かつては巨人に人気が集中する、言わば"東京一極集中"に近い状況であったものが、今では、ホークスのほかにも北海道日本ハム、広島、東北楽天などの地方都市に本拠地を置くチームが、軒並み観客数を大きく伸ばし(図3)、プロ野球全体の観戦者数の増加に貢献するとともに、巨人の相対的位置付けは大きく低下しています(図4)。

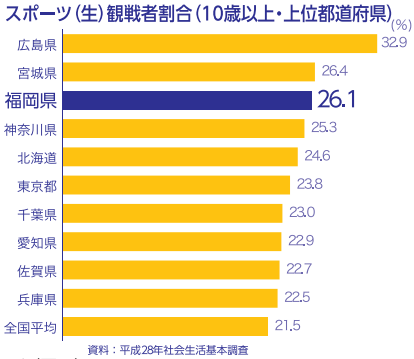
スポーツ観戦者割合の上位都道府県は、全てプロチームの本拠




▲(図2)




▲(図4)




▲(図5)

地があり、地方の県が上位を占めていることが特徴となっており、地域とプロスポーツチームの関係が、より密接になっていることを示しています（図５）。

福岡市は、ホークスやアビスパ以外にも、バスケット、ラグビー、女子サッカーなど、多彩なトッププロチームの本拠地となっています。各チームとも、市民との交流や子どもたちへの指導など、地域に密着した取組みを積極的に展開しており（表１）、市民のスポーツ活動への関心と参加意欲を高め、この中から、次の世代のスターが生まれ、地域で活躍する好循環が生まれることが期待されます。

福岡のトッププロスポーツチームが子どもたちにスポーツの素晴らしさを伝える「スタージャンプ福岡」協力チーム

| | | | |
|---|---|---|---|
| アビスパ福岡 | サッカー：Jリーグ | 福岡Ｊ・アンクラス | 女子サッカー |
| コカ・コーラレッドスパークス | ラグビー：トップリーグ | 福岡ソフトバンクホークス | 野球：プロ野球 |
| 宗像サニックスブルース | ラグビー：トップリーグ | ライジングゼファーフクオカ | バスケット：B.LEAGUE |
| 九州電力キューデンヴォルテクス | ラグビー：トップチャレンジリーグ | | |

▲表１

## あらゆる世代で盛んな市民のアマチュア・スポーツ活動

福岡市には、多くのアマチュア・スポーツ団体があり（表２）、これらに属さない人も含めて、あらゆる世代の人がスポーツに親しんでいます（図６）。福岡市のスポーツ施設の利用者は増加傾向で（図７）、需要増に対応して、2018年12月には新たに「福岡市総合体育館」がアイランドシティに開場しました。新たな施設の開場で、市民のスポーツに接する機会がさらに増えることが期待されます。

次の時代を担う少年・少女対象のスポーツ団体も、さまざまな分野で活動しているほか（表３）、中学からは部活動として、学校でも多様な活動に取り組まれています（図８）。部活動など、子ども達が属する団体は、地域に根ざした活動が基本で、選手は、地元の応援を背に、地区、市、県を勝ち抜き、やがて全国へと羽ばたくことを目指しています。

福岡市のスポーツ団体（保険加入分）

（団体・人）

| 団体区分 | 団体数 | 団体員数 |
|---|---|---|
| 地域スポーツクラブ | 1,829 | 28,776 |
| 会員制スポーツクラブ | 41 | 4,801 |
| 会社の団体 | 95 | 2,141 |
| 官公庁の団体 | 17 | 560 |
| 合計 | 1,982 | 36,278 |

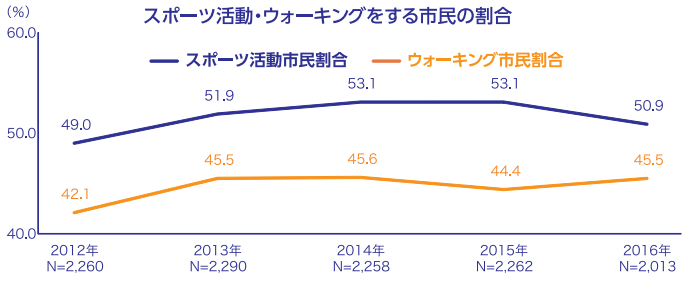
▲表2　2017年度傷害保険加入状況累計（保険加入団体のみ）

福岡市スポーツ少年団登録数

（団体）

| 種目 | 団体数 | 種目 | 団体数 |
|---|---|---|---|
| 軟式野球 | 24 | 拳法 | 1 |
| サッカー | 3 | 剣道 | 1 |
| ソフトボール | 3 | なぎなた | 1 |
| バレーボール | 18 | アイスホッケー | 1 |
| 少林寺拳法 | 2 | セーリング | 1 |

▲表3　資料：福岡市スポーツ協会



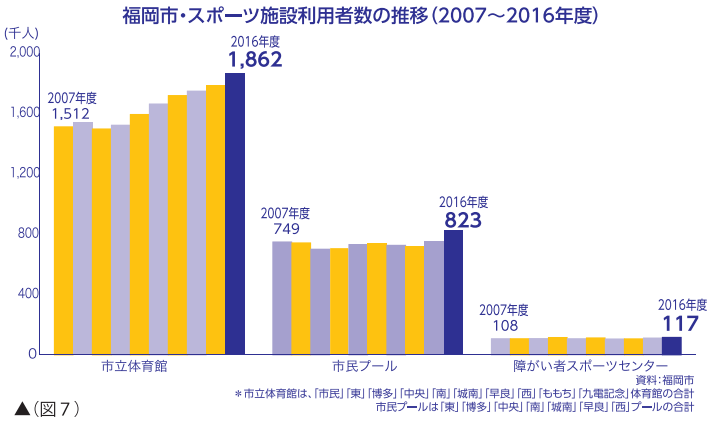

▲（図６）　資料：福岡市「第9次福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査」スポーツ活動‥スポーツ活動の頻度が「週に1回」の合計

## 地域独自のコミュニティ形成による効果

見る人は地元の選手を応援し、選手はそれを力にさらなる高みを目指すことで、自然と地域の一体感が醸成されることは、子ども達のアマチュア・スポーツからプロスポーツチームまで共通しており、スポーツの持つ大きな力の一つともいえます。地域における人と人の結び付きが希薄化する中で、スポーツ活動は、地域のコミュニティを形成する上で大きな役割を担うことが期待されます。

地域の自治や防災、災害時の共助など、地域コミュニティの重要性が高まっており、プロ・アマ問わず、スポーツを介した人と人の結び付きや地域への愛着の醸成は、個人と地域をつなぐという意味で、スポーツの持つ大きな可能性を示しています。

プロスポーツチームと地域の関係性は、“脱・東京一極集中”のモデルケースであり、経済活動に対する示唆も含まれています。地域での相互関係が強化し、地域が一体となって盛り上がることで、独自の経済圏やエコシステム（生態系）の形成が促される効果が期待されます。地方都市のプロ野球観戦者が、プロ野球全体の観戦者数を押し上げたように、地方の経済圏の拡大が、日本全体の経済活性化につながる可能性を秘めているといえます。




資料：福岡市
＊市立体育館は、「市民」「東」「博多」「中央」「南」「城南」「早良」「西」「ももち」「九電記念」体育館の合計
市民プールは「東」「博多」「中央」「南」「城南」「早良」「西」プールの合計

▲（図７）

福岡市立中学６８校・部活動別実施率

(%)

| | | |
|---|---|---|
| スポーツ系 | バスケットボール | 89.7 |
| | 野球・軟式野球 | 86.8 |
| | バレー | 86.8 |
| | テニス・ソフトテニス | 82.4 |
| | サッカー | 77.9 |
| | 剣道 | 70.6 |
| | 卓球 | 67.6 |
| | 陸上 | 60.3 |
| | ソフトボール | 32.4 |
| | 水泳 | 22.1 |
| | 柔道 | 17.6 |
| | ハンドボール | 16.2 |
| | バドミントン | 13.2 |
| | 体操・新体操 | 5.9 |
| | その他 | 2.9 |
| 文化系 | 吹奏楽・音楽 | 80.9 |
| | 放送 | 75.0 |
| | 美術 | 72.1 |
| | 演劇 | 10.3 |
| | ボランティア | 8.8 |
| | 英会話・ESS | 7.4 |
| | パソコン | 4.4 |
| | 野外活動 | 2.9 |
| | 書道 | 2.9 |
| | 国際交流 | 2.9 |
| | その他 | 16.2 |

▲（図８）　＊各中学校ホームページ、学校教育情報サイト・GaccomからURC集計
＊男女いずれかのみの実施も含む

# No Sports No Life

## 福岡 × スポーツ

福岡市は、大都市でありながら、海も山も都心から近く、豊かな自然に囲まれています。私たちは、海や山、都心の緑地など豊かな自然の中でさまざまなスポーツや野外活動を身近に楽しむことができます。また福岡市は、古来より大陸との玄関口として、人や文化の交流が盛んにおこなわれてきたことから、国際的なイベントが数多く開催されています。そうしたことを背景に、企業や行政、市民の皆さんのサポートで国際的・全国規模のスポーツイベントも数多く開催されています。

福岡市では、1975 年に全国に先駆けて「市民スポーツ振興総合計画」を策定し、これに基づいて、各区に体育館やプールなどの施設を順次に整備してきました。同時に、指導者の養成・確保やスポーツ団体の育成・強化などを行い、地域スポーツの普及・振興を図ってきました。さらに、1995 年に開催された「ユニバーシアード福岡大会」を契機に「国際スポーツ都市宣言」を行い、国際スポーツ大会などの積極的な招致・開催や、プロスポーツの振興にも力を入れています。

ここでは、市民の皆さんが楽しみながら体を動かす活動として幅広く捉え、「自ら実践するスポーツ」、スタジアム観戦をはじめとする「見るスポーツ」、ボランティア活動など「支えるスポーツ」について、スポーツ文化を推進する福岡市の現状ついて見てみましょう。

**週に 3 日以上運動する人（31.3%）が多い。** 週に 1 ～ 2 日は、28.2%。全国的には、週 1 日以上する人の割合（42.5%）が一番多い。

資料：平成 26 年度　福岡市市民スポーツ実態調査報告書
平成 28 年度「スポーツ実施状況等に関する世論調査」

**1 回あたりの継続時間は、1～2 時間（29.5%）が多く、**次いで 30 分～ 1 時間の割合は、24.7%。

厚生労働省は、健康に日常生活を送ることのできる健康寿命を延ばすために、今より **10 分**多くからだを動かすことを推進。

資料：平成 26 年度　福岡市市民スポーツ実態調査報告
厚生労働省の健康づくりのための身体活動指針
（アクティブガイド）

## 健康・体力づくり

**のため運動する人が断然多い。**次いで、気晴らし、楽しみ、レクリエーションとして行う人が多い。

資料：平成 26 年度　福岡市市民スポーツ実態調査報告

この 1 年で行ったスポーツは、

## ウォーキング、体操

**など、手軽にできる軽い運動をする人が多い。**

2017 年 5 月に発表された British Journal of Sports Medicine（スポーツ医学の雑誌の中で最も権威のある論文）によると、**ラケット競技**が死亡リスクを下げ、健康に良いと報告されました。

資料：平成 26 年度　福岡市市民スポーツ実態調査報告

スポーツを行った場所は、**公園**や**広場**（10.2%）、**道路**や**空地**（9.3%）が多く、**自宅**（8.9%）でスポーツを行う人も多い。民間（商業）スポーツ施設を利用する人は、校区内（6.4%）より校区外（8.1%）に行く人の方が、多い。

資料：平成 26 年度　福岡市市民スポーツ実態調査報告

日常的なスポーツ関連支出は、
**全国平均より高い。**

スポーツ月謝：20,120 円（全国平均：12,056 円）
スポーツ用品購入：13,596 円（全国平均：11,120 円）
スポーツクラブ使用料：5,905 円（全国平均：5,294 円）

**一方で**、公共スポーツ施設などの他のスポーツ施設には、全国平均より安く利用している人が多い。
他のスポーツ施設使用料：1,987 円（全国平均：2,272 円）

資料：家計調査　家計収支編　2017 年　2 人以上の世帯

近年、スポーツボランティア数や育成講座も増加しており、
**福岡マラソンのボランティア参加者は、**
**3,882 名**（2018 年）
年々増加傾向にある。

福岡では、1 年を通してさまざまな国際スポーツ大会、全国規模のスポーツ大会など開催。

- 2月頃　福岡国際クロスカントリー大会
- 4月　全日本選抜柔道体重別選手権大会
- 5月　福岡国際女子テニス
- 7月　金鷲旗・玉竜旗高校柔剣道大会
- 10月　市民総合スポーツ大会（総合開会式）
- 11月　大相撲九州場所
- 12月　福岡国際マラソン選手権大会

- 2019 年 4 月　世界フィギュアスケート国別対抗戦 2019
- 9 月　ラグビーワールドカップ
- 2020 年　東京オリンピック・パラリンピック
- 2021 年 7~8 月　FINA 世界水泳選手権 2021 福岡大会

## 福岡市公共スポーツ施設

- テニスコート、野球場、球戯場（32施設）
  - 青葉公園
  - 愛宕浜中央公園
  - 飯氏田園スポーツ広場
  - 今津運動公園
  - 今津グラウンド
  - 上月隈中央公園
  - 榎田中央公園
  - 大井中央公園
  - 小戸公園
  - 香椎浜公園
  - 柏原中央公園
  - 雁の巣レクリエーションセンター
  - クリーンパーク臨海運動広場
  - クリーンパーク東部運動広場
  - 山王公園
  - 汐井公園
  - 四箇田園スポーツ広場
  - 社領スポーツ広場
  - 社領南公園
  - 水産加工センター運動広場
  - 西南杜の湖畔公園
  - 西部運動公園
  - 田尻田園スポーツ広場
  - 長住中央公園
  - 箱崎公園
  - 東油山公園
  - 東平尾公園
  - 桧原運動公園
  - 桧原ソフトボール場
  - 平和中央公園
  - 舞鶴公園
  - 百道中央公園
- 体育館（14施設）
  - 福岡市民体育館
  - 中央体育館
  - 和白地域交流センター体育館（コミセンわじろ）
  - 博多南地域交流センター体育館（さざんぴあ博多）
  - 東体育館
  - 南体育館
  - 西体育館
  - 早良体育館
  - 博多体育館
  - 城南体育館
  - ももち体育館
  - 福岡市総合体育館
  - 西部地域交流センター体育館（さいとぴあ）
  - 障がい者スポーツセンター
- プール（7施設）
  - 総合西市民プール
  - 中央市民プール
  - 早良市民プール
  - 東市民プール
  - 南市民プール
  - 博多市民プール
  - 城南市民プール

No Sports, No Life 福岡市総合体育館

# 地域とつながり、あらゆる人が集う新しい体育館に

## 九電記念体育館に代わる新たなスポーツ施設を

福岡市では、福岡市民体育館と九電記念体育館で、多くの大規模な大会が開催されてきました。しかし、どちらの施設も老朽化が進んでいること、アリーナ面の広さや諸室、駐車場が不足していることなどの課題に加え、九電記念体育館敷地の借用期限が到来するという課題がありました。

▲メインアリーナ

▲サブアリーナ

## 遠方からの来場にも対応しアクセスしやすく変化

福岡市総合体育館のメインアリーナは、固定席約3200席、可動席約1800席、計約5000席の施設となっています。2019年の春頃、香椎浜にある西鉄バスの営業所が福岡アイランドシティに移転、それに合わせて市の中心部とを結ぶ運行本数も増える予定です。また2020年度には都市高速道路の延伸が予定されているので、交通アクセスも飛躍的に良くなります。自動車で来館される方のために、福岡市総合体育館には、約500台の駐車スペースが設けられています。

## 市民にとって気軽に使えるスポーツ施設を目指して

福岡市総合体育館では、イベントや施設の空き状況がホームページで公開され、将来的には利用者の方がサークルの仲間や対戦相手を募集できるSNS機能の搭載も計画しているそうです。館内にはコニュニティラウンジが設けられており、グループやサークル活動の後の歓談の場にも使え、他のサークル等とも気軽に交流できる場としても利用できます。また、研修会議室等では、いろいろな教室やイベントが行われる予定で、子どもが放課後に利用したり、夏休みの子ども工作教室を開いたりと、アリーナを利用するスポーツだけでなく、様々な方が訪れ、地元や地域に貢献できる施設として期待が高まります。球技やダンス、子ども向けのイベントなどを通じて横のつながりができ、今度一緒に何かやろうか、というような会話が生まれ、人との繋がりが広がる場所になれるといいですね。

▼弓道場

## 充実した設備で様々な利用方法が可能

福岡市総合体育館は地上４階建てで、子どもから高齢者、障がい者などの市民の誰もが安全にスポーツを楽しめる、利用しやすい機能を備えています。施設内には、バレーボールやバスケットボール、バドミントン、体操などを行うことのできるメインアリーナ・サブアリーナ、そして武道場、弓道場があり、ほかにもエアロビクスの練習や卓球などの軽スポーツ、ダンスなどに使える多目的室や、多くの機器が整っているトレーニングルーム、絵本などもあり親子で楽しめるキッズルームなどが設けられています。

また、２階アリーナの観客席の周りにはジョギングコースが設けられており、雨の日などでもジョギングができます。トレーニングルームも充実しており、高齢者や障がい者の方も安心して使用できる機器も導入されています。さらに、有資格者によるトレーニング相談や個別トレーニングメニューの提供を受けることができます。

一方で、緑豊かなまちづくりを進めるアイランドシティでは、まちの中央を南北に貫くグリーンベルトの整備を進めており、総合体育館に隣接するエリアでは、子どもたちが集ったり、親子連れでお弁当を食べたりする憩いの場として利用できるのはもちろんのこと、総合体育館の外周からつづく１周800ｍのウォーキング・ジョギングコースやウォーミングアップ等で利用できる広場が設けられ、総合体育館と一体的に活用ができます。

設備などのハード面のみならず、普段運動しない人にも健康づくりに目を向けてもらえるようなソフト面の取り組みを充実させていくことも重要なので、地域と連携し、相互にとって有意義なイベントの開催など、新しい企画が進められることも期待されます。

◆市民局スポーツ推進部スポーツ振興課（総合体育館総合調整担当）◆

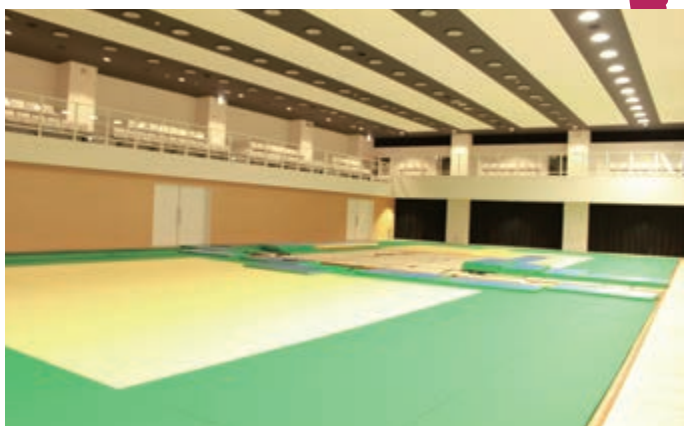
**利用時間：**9:00～22:00　　**開館時間：**8:00～22:50
**トレーニングルーム 利用時間：**8:30～22:00
**休館日：**・毎月第３月曜日（祝日の場合は翌日が休館日）
・年末年始（12/29～1/3）
**駐車台数：**約500 台

〒813-0017　東区香椎照葉六丁目１番１号
TEL092-410-0314　FAX092-410-0318

▼キッズルーム

▼障がい者用のトレーニング器具

▲隣接するグリーンベルト



▲武道場

No Sports, No Life ラグビー

# 世界最高峰のラグビーが福岡で観戦できる！

**2019年9月に開幕するラグビーワールドカップ。開催都市の1つに福岡が選ばれました。**

## 福岡がラグビーワールドカップ2019の開催都市に決定！

2015年、イングランドで開催された前回大会は、約247万人がスタジアムで、約40億人がテレビを通じて観戦し、大いに盛り上がりました。ブライトンの奇跡と呼ばれた日本代表が南アフリカに歴史的勝利をあげた試合をご覧になられた方も多いと思います。あれから4年。今年9月20日に開幕する日本大会は、全国12都市で開催され、その会場の1つに福岡が選ばれています。

福岡はラグビーが盛んな土地。ラグビースクールの数は47都道府県で2番目に多く、競技人口（ラグビー協会登録者数）も4番目に多いといわれています。前回大会で活躍した五郎丸歩（あゆむ）選手をはじめ多くの日本代表を輩出しており、日本大会でも福岡出身の福岡堅樹（けんき）選手、流大（ながれ ゆたか）選手、山田章人選手たちの活躍が期待されています。

また、2012年秋には国際大会「ゴールデンオールディーズ・ワールドラグビーフェスティバル福岡」が開催され、世界各国から35歳以上のラグビー愛好家とその家族が福岡を訪れました。その際、外国人参加者の満足度が90％を超えるなど、福岡のホスピタリティが高く評価され、「フレンドシップアワード」を受賞。世界のラグビー関係者に好印象を与えたことや、ラグビーワールドカップの招致活動の際に10万人以上の署名を集めたことなども後押しし、福岡での開催が決定したのです。

ぜひ、多くの皆さんに会場まで足を運び、世界最高峰のラグビーを体感してほしいと思います。

**チケットについて**

1月19日（土）から第二次一般販売（先着）開始!!

## 国内外から多くの観戦客が福岡、九州に！

日本大会には約40万人の海外からの観戦客が訪れるといわれています。また、ラグビーワールドカップの観戦客は平均2週間程度滞在するともいわれており、大きなインバウンド効果が期待されています。

福岡では、イタリア対カナダ、フランス対アメリカ、アイルランド対サモアの3試合が行われます。また、九州では、福岡に加えて熊本や大分でも試合が開催されることから、大会期間中には多くの外国人観光客（特に欧米豪から）の訪問が見込まれます。一人でも多くの方に福岡、そして九州を訪れていただくため、今年度は、香港、フランス、オーストラリアで海外プロモーションを実施しました。

大会を成功させるためには、試合を円滑に運営することはもちろんですが、こうした外国人観光客に福岡のよさを知っていただけるよう、しっかりとおもてなしをすることも大切です。

## 気軽に試合を観戦し、ラグビーの魅力に触れてほしい。

一般的にラグビーは、ルールが難しいと敬遠されがちなところがありますが、実際の試合をスタジアムで観戦し、迫力あるプレイを目の当たりにするとラグビーのファンになる方がたくさんおられます。大会まで、県内でも国内ラグビー最高峰リーグ「ジャパンラグビートップリーグ」をはじめ、高校生や大学生の試合が数多く行われます。まずは、スタジアムで試合を観戦し、ラグビーの魅力に触れるところから始めてみてはいかがでしょうか。

◆ラグビーワールドカップ2019
福岡開催推進委員会事務局◆

**ラグ村ラグ江とは**

ラグビーワールドカップ2019™が福岡で開催されることをきっかけに、ラグビーを盛り上げようと勝手に立ち上がったラグビー素人OL。ラグビー経験・知識ともになし。
福岡市HPでゆる～く連載中。

No Sports, No Life　オリンピック

# 2020年東京オリンピックを福岡から盛り上げる

**福岡市は、ホストタウン先進都市として、「キモノプロジェクト」で2020東京オリンピックへ気運を高めています。**

## ホストタウン先進都市、福岡市 スウェーデン、ノルウェーをサポート

オリンピックを日本全国で盛り上げる自治体の取り組みとして「ホストタウン」があります。ホストタウンとは、オリンピックにおける参加国の事前合宿地として誘致し、地域との相互交流を図ることを目的としています。今回、福岡市・福岡県はスウェーデンとノルウェーのホストタウンとして認定されました。スウェーデンとは、2008年北京オリンピックの時に福岡市がホストタウンを務めた実績があり、東京オリンピック開催が決定した時も、いち早く合宿地を福岡市に決めるほど高評価を頂いています。福岡市の担当者がすべてワンストップで対応し、アクセスが良くコンパクトな都市である福岡の環境が決定要因の一つです。2019年7月に韓国で開催される世界水泳の際も、福岡で事前合宿を行います。ノルウェーについては、友好国であるスウェーデンとJOCを通じて決定に至っています。

2020東京オリンピックでは、2018年12月アイランドシティに完成した総合体育館を利用する予定としているほか、アリーナで実施するインドア競技（レスリング、テコンドー、ハンドボールなど）や、全競技の選手が行うトレーニングジム、水泳競技の練習場としてアクシオン福岡（県立総合プール）などが検討されています。いかに選手たちがコンディションよく本番に向かえるかが一番大切です。そのため、交流事業は選手が練習している場所を訪問するなど、負担にならないよう配慮して行う予定ですが、北京オリンピックの際は子供たちとの交流で選手がリラックスできたという話もあり、そのバランスに気を遣うところです。福岡市はホストタウンの先進都市として、高い評価を得ており、各自治体などが視察に訪れたり、自治体の講演会に呼ばれることもあります。

▲SOC基本合意書（締結）

▲NOC基本合意書（締結）

## 「キモノプロジェクト」で交流を深め 日本文化をPR

ホストタウンの取り組みのひとつとして一般社団法人イマジン・ワンワールドが取り組んでいる「キモノプロジェクト」との文化プログラムを実施し、スウェーデン、ノルウェーをイメージした着物の制作に挑戦しました。スウェーデンでは、福岡に住む着物好きの女性や、留学生が参加し、ワークショップを行いながら、スウェーデンをイメージした着物デザインを提案。その中で、スウェーデンからの留学生より、母国の文化・習慣などをレクチャーしてもらいながら交流を深めました。出来上がった着物は一昨年スウェーデンのオレブロ市で開催された国際アートイベント「Open Art」(2017年)及び在スウェーデン日本大使館において披露されました。「Open Art」では着物を展示し、来場者や観光客に着物の試着体験をしてもらいながら日本文化を紹介しています。ノルウェーをイメージした着物の制作は、福岡市立舞鶴小学校５年生の総合学習授業の中で、ノルウェーの文化や自然、生活などについて学び、留学生との交流授業を行い、児童がそれぞれデザインを作りました。児童が描いたデザインを東京友禅の先生にまとめていただき、昨年１月にノルウェーの着物が完成しました。今後は、経済観光文化局と連携を強めながら、福岡市の観光と着物をセットで観光ＰＲしたり、2020年には、今回携わった児童たちが、選手団との市民交流事業へ参加するプログラムが計画されています。

◆福岡市市民局スポーツ推進部 スポーツ事業課◆

# 福岡に 世界水泳選手権が帰ってくる！

**2001年に福岡で開催された世界水泳選手権。
20年という節目を迎え、再び福岡での開催が決まりました。**

## 成功を収めた 2001年世界水泳選手権

2021年7月16日～8月1日（予定）に「FINA世界水泳選手権」が福岡市で開催されます。日本での開催は、アジアで初めて開催された2001年の福岡大会から20年ぶり2回目。マリンメッセ福岡(博多区)などで6種別76種目が行われ、190以上の国・地域から約2,400人のアスリートが参加予定です。

日本で2大会連続、福岡市が開催地に選出された理由は、2001年大会の成功があるといえます。2001年大会には134カ国・地域から約1,500人の選手が参加、イアン・ソープ選手などの活躍もあり大成功を収めました。また、施設面では世界で初めて50mの仮設プールによる世界水泳選手権を成功させました。この大会以降、仮設プールが世界選手権のスタンダードとなり、国際大会が可能な常設プールを持たない都市でも開催できるようになりました。

2019年にラグビーワールドカップ、2020年に東京オリンピック・パラリンピック、2021年に世界水泳選手権と、3年連続でビッグスポーツイベントが日本で行われ、そのうち２つが福岡市で開催されます。

2021年は、2001年の福岡大会から20年目に当たる節目の年であり、この間、発展を続けてきた福岡市の姿を国内外に強くアピールし、スポーツMICE都市として大きく飛躍する絶好の機会となるでしょう。

## マスターズ大会も同時開催！ あなたは観戦派？参加派？

ロシアで開催された2015年カザン大会から、「FINA世界マスターズ水泳選手権」も世界水泳選手権と同時に開催されるようになりました。2021年福岡大会でも世界マスターズ水泳選手権を同時開催します（2021年8月3日～8月12日予定）。世界中の元選手や水泳愛好家たちが出場するマスターズ大会は、アスリートだけでなく、一般市民も参加できる大会です。出場資格として25歳（水球は30歳）以上で国内では日本マスターズ水泳協会に登録しているチームが条件ですが、登録は水泳クラブや水泳サークルの他、夫婦や兄弟などでのチーム登録も可能です。マスターズ大会は日本でも盛んで、2018年5月に総合西市民プール(西区)で開催された大会は全国から1,000人以上が集まりました。マスターズ大会は１人で複数種目の出場が可能なので、数日間滞在する人もいるでしょう。

世界中から大勢の水泳愛好家が集うマスターズ大会。あなたは観戦する派？参加する派？どちらの楽しみ方もおすすめです。

## 今後のロールモデルとなる 2021年世界水泳選手権へ

2001年大会は、イアン・ソープ選手の活躍やB'zのテーマ曲「ultra soul（ウルトラ・ソウル）」のインパクトが強く記憶に残っている人も多いでしょう。

2021年大会は、2001年大会より種別・種目も増え、2013年大会から始まった「ハイダイビング」は、高さ27mから着水するまでの技を競うというダイナミックな演技で、一躍注目を集めるのは間違いないでしょう。また、マスターズ大会も同時開催するため、世界中から来福者が増えることが予想されます。多くの人に、観たり参加して頂いて、次のロールモデルになるような大会を目指して、2021年7月に向けて準備中です。

2018年9月には組織委員会を設立。2021年福岡大会の情報については福岡市ホームページ内に掲載し、最新情報を随時公開していきます。何万人もの熱い声援で、福岡を盛り上げていきましょう。

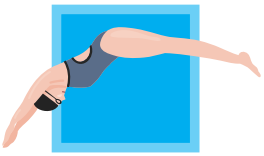
◆福岡市市民局スポーツ推進部 世界水泳準備担当◆

競泳
Swimming

自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの4つ。さらに4つの泳法を順番に泳ぐ個人メドレーや、リレーもあります。

飛込
Diving

飛板飛込、高飛込、シンクロナイズド飛込が行われ、着水までの一連の動作の演技や入水の正確さを競います。



ハイダイビング
High Diving

2013年の世界水泳から加わり、女子は高さ20m、男子は高さ27mから飛込みます。

水球
Water Polo

ゴールシーンの迫力や、水上、水中で繰り広げられる選手たちのダイナミックな動きが見どころです。

オープンウォータースイミング
Open Water Swimming

海、川、湖など、自然の水の中で行われる「水のマラソン」。5km、10km、25kmがあります。

アーティスティックスイミング
Artistic Swimming

女子のソロ、デュエット、チームのほか、男女のミックスデュエットが行われ、息の合った演技で「美」と「技」を華麗に競います。

No Sports, No Life　マラソン

# 地域に根付いた福岡マラソン！秋の風物詩となるべく、さらなる進化を図る！

**2018年11月で第5回を迎えた福岡マラソン。**
**福岡市の中心・天神から自然あふれる糸島市へ向かうコースは魅力がいっぱい！**

## 市民の皆さまの協力と応援により すべての人が楽しめる大会に

福岡マラソンは、2014年の初開催から、昨年で第5回となりました。元々、福岡市では「シティマラソン福岡」というハーフマラソンが開催されていましたが、2007年の東京マラソンを契機としたランニングブームと、福岡でも市民参加型フルマラソン開催を熱望する市民の皆さまからたくさんの署名が集まり、その想いに応える形で「福岡マラソン」の開催が決まりました。

## 「感謝」と新たな「チャレンジ」で 大会の魅力アップを図る

第5回目のテーマである「感謝」と「チャレンジ」にちなんで新たにスタートした取り組みが、４つあります。

まずは、毎回エントリーしているにも関わらず、残念ながら３回連続して落選された方に、大会を応援し続けていただいていることへの「感謝」として「連続落選枠」という優先枠を設けました。

２つ目は、ボランティアとして大会を支えていただいているみなさまへの「感謝」として、10名以上でボランティアに参加していただくグループに１人分の今大会の出走権をプレゼントする「グループボランティア枠」を新設しました。

３つ目が、「First Step プロジェクト」です。「福岡100」という、人生100年時代の到来を見据えて、100のアクションを実施していくという福岡市の主要施策のひとつとして福岡マラソンが「チャレンジ」した事業です。

「はじめの一歩」という意味ですが、今まで運動に興味があったけれど、なかなかはじめるきっかけがなかった方を対象に、福岡マラソンと地元ラジオがタッグを組み、「産・学・官」連携して、健康づくりのための講演や実際に体を動かすランニング等の教室を実施しました。受講者にはファンラン（5.2㎞）の出走権を付与し、それまで頑張ってきた成果を発揮していただきました。

そして４つ目が、「車いす競技チャンレジ応援プロジェクト」です。福岡マラソンには車いす競技（5.2㎞）がありますが、参加するためにはレーサーと呼ばれる競技用の車いすが必要となります。高額のためレーサーの購入が大会参加への障壁となっていましたが、障がいのある子どもたちに車いす競技の指導をされているNPO法人はぁとスペースさんと共働でレーサーの貸し出しやリオパラリンピック日本代表の山本浩之選手による競技指導など、大会への「チャレンジ」をサポートするプロジェクトです。

## まち全体がつくる福岡マラソンの魅力

第5回のフルマラソンの抽選倍率は3.2倍でした。全種目の申込者合計は4万人を超えており、九州のなかで最もエントリーが多い大会です。2017年大会は、各地のレースに参加したランナーの投票により決定される「全国ランニング大会100選」にも選ばれました。

毎年、約25万人の方が沿道はもとより、船・ヨットの上からも、さまざまな工夫を凝らした応援をされています。参加されたランナーの方々からも「きつい時に応援が本当に力になった」、「海上からの応援は他では見たことがなく、非常に良かった」と高評価を得ています。

また、福岡マラソンの特徴のひとつに、平均96％という完走率の高さがあります。その理由は、制限時間が７時間と長いということもありますが、それだけではありません。参加ランナーの約４分の１は初めてフルマラソンにチャレンジする方です。そういう方も含めて高い完走率をキープできているのは、こうした地元の方々の声援、ボランティアの皆さまなど運営に関わる方々の温かいサポートのおかげでしょう。

これからも福岡マラソンは、「する・見る・支える」そのすべてが一体となった全員参加型の大会として、また、博多どんたくや博多祇園山笠などと同じように、広く市民に愛され、福岡の秋の風物詩となるような魅力ある大会へ進化していきたいと思っています。

◆福岡市スポーツ事業課 福岡マラソン実行委員会事務局◆

# 世界で急速に広まる「eスポーツ」が

**世界各地で加速するeスポーツのムーブメント。**
**米国、中国、韓国が世界をリードする中、福岡でもついに大きなeスポーツイベントが行われます。**

（公財）福岡アジア都市研究所 調整係長
福岡eスポーツ協会 会長
中島 賢一

## 世界をリードする eスポーツ大国「中国」の事情

デジタルゲームを競技として楽しむeスポーツが世界中に普及しつつあります。

競技人口や市場は拡大し、国際オリンピック委員会は2018年7月にeスポーツ関係者との意見交換会をスイスで開き、オリンピック種目への採用について検討しました。最終的に、この検討会では採用は見送られましたが、今後も引き続き注目されることでしょう。

一口にeスポーツといっても種類はさまざまです。

サッカーや野球など実際に存在するスポーツをベースとしたゲーム、1人称視点のシューティングゲーム、格闘技をベースとしたゲーム、トランプのようなカードを使ったゲーム、チームでそれぞれのキャラクターを駆使し、相手チームを倒す戦略ゲームなど、豊富にあります。

それぞれにファンがいて、プロ選手もいます。プロ選手は大会に出て賞金を獲得し、それだけで生計を立てている人もいます。

これまで遊びとしての印象が強かったゲームはeスポーツとして急速に“スポーツ化”が進んでいます。

2018年8月から9月にかけて開催されたジャカルタアジア競技大会ではeスポーツが公開種目になり、日本人選手がサッカーゲームで金メダルを獲得しました。2022年にはeスポーツに積極的に取り組む中国で開催される杭州アジア競技大会で正式種目に決定し、eスポーツプレイヤーが日本選手団に仲間入りします。

中国では2003年に国家体育総局がeスポーツを99番目の体育種目に指定し、以降アスリート育成に力を入れています。

そうした状況の中、世界をリードするeスポーツ大国「中国」で実際にeスポーツを楽しんでいる現場を取材しました。

上海中心部から車で20分ほど、上海大学の近くにあるショッピングモールに併設している「B5電競館（B5 Gaming Cafe）」。日本で言えばインターネットカフェに相当する施設です。店内はパソコンが整然と並び、若者がゲームを楽しんでいます。日本ではゲームといえばスマートフォンや家庭用ゲーム機を想像する人が多いかもしれませんが、10億円を超えるような高額賞金が設定されているeスポーツ種目はパソコンを使ったゲームに多く見られます。

日本のインターネットカフェとの大きな違いとして中国の施設には漫画がなく、パソコンしかないところです。天井は高く開放的で、中央にはイベントステージがあり、毎週のようにeスポーツイベントが開かれています。そのため施設には選手が対戦するためのブースのほか、実況席もあり、ゲームをスポーツとして楽しむ環境が整えられています。施設利用料は1時間100円程度から段階的に設定しており、飲食コーナーも充実し、気軽に利用できます。インターネットを使って対戦することが基本となっていて、東京の施設と連携してイベントを開催することもあるそうです。

# 福岡にも！

eスポーツ後進国と言われる日本にeスポーツが普及するには、こうした施設が必要なのかもしれません。

## EVO Japan 2019の開催地に福岡が決定！

皆さんはEVOというイベントをご存知でしょうか？EVOとは「Evolution Championship Series」の略称で、1995年から米国ラスベガスで開催されているeスポーツの国際的な祭典です。主に格闘技をベースにしたゲームを種目としており、世界各地から選手や観客が訪れます。どの種目も日本のゲームタイトルが採用され、日本人選手が最も多く活躍するeスポーツイベントとも言われています。2018年1月に初めて米国以外として東京で開催され、68カ国7,000名を超える選手が参加し、観客も合わせると約12,000名を集め、1,000万人を超えるインターネット視聴者数を誇る大きなイベントとなりました。2019年の開催地を巡っていくつかの都市が誘致を試みましたが、会場、交通機関、開催地からの支援など様々な要素を検討した結果、福岡市が選ばれ、2018年8月にラスベガスで行われた「EVO 2018」で発表され、国内では驚きの声が多数あがりました。福岡にはゲーム開発企業などからなる業界団体「GFF」のほか、eスポーツを普及する組織「福岡eスポーツ協会」などイベントを開催するコミュニティが複数あり、国内トップクラスのeスポーツプレイヤーも活動しています。また、福岡市役所にはゲーム産業を推進する専門部署のコンテンツ振興課があり、毎年ゲームコンテストやゲームクリエイターを招いたイベントも行うなどゲームに親和性がある街です。

EVO Japan 2019が、2月15日～17日まで開催されることにより世界中から選手や観客が福岡を訪れ、eスポーツの普及促進とともに福岡のゲーム産業のさらなる発展の後押しになることが期待されます。

### eスポーツの普及団体が福岡に誕生！

eスポーツがさまざまな立場の人たちの交流や心身の健全な発達を促し、スポーツ文化の発展に寄与することを目指した任意団体「福岡eスポーツ協会」が9月に立ち上がりました。福岡eスポーツ協会では、eスポーツイベントの開催、eスポーツイベントの開催支援のほか、eスポーツに関する情報発信や、企業・団体・学校などへの啓蒙活動を行っています。eスポーツのことを知りたい、イベントをやってみたいという方は公式サイトからお問い合わせしてみてはいかがでしょうか？

Fukuoka e-sports association

福岡eスポーツ協会
URL: http://esports-fukuoka.com/

## ■研究所情報

公益財団法人福岡アジア都市研究所(URC)は、各界各層の協力と連携のもとに、都市政策を研究し、アジアの視点も取り入れながら、将来の都市戦略を提言する研究機関です。また、様々なネットワークを構築し、情報の交流・発信を行いながら、各セクターを結びつけるコーディネーターの役割も担っています。「福岡・アジアのことならURCに」と誰からも期待される研究所であることを、私たちは願うものであります。みなさま方の温かいご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

**使命ー公益財団法人　福岡アジア都市研究所は…**

**「市民とともに福岡を究め、地域に役立つ研究所を目指します!!」**

**「アジアの都市と連携し、グローバルな視点でローカルを考える研究所を目指します!!」**

## ■賛助会員制度

年会費（法人一口：10,000円、個人一口：5,000円、学生一口：2,000円）をお支払いいただくと、さまざまな特典が受けられる賛助会員制度があります。詳しくは、(公財)福岡アジア都市研究所までお訊ねください。

TEL:092-733-5686　FAX:092-733-5680　E-mail：info@urc.or.jp

**●特典**

1．研究所主催のセミナー等の開催情報を優先的にご案内
2．都市情報誌「fu＋」を毎号１部無料でお届け
3．研究紀要「都市政策研究」を毎号１部無料でお届け
4．URC 資料室だよりを毎号、e メールまたは郵送によりお届け
5．ホームページで会員名(希望する法人会員のみ)をご紹介

## ■都市政策資料室

(公財) 福岡アジア都市研究所の都市政策資料室では、アジア地域を含む都市政策関係図書、各種調査・研究の成果報告書、行政資料などを幅広く収集・公開しております。どなたでもご利用いただけます。

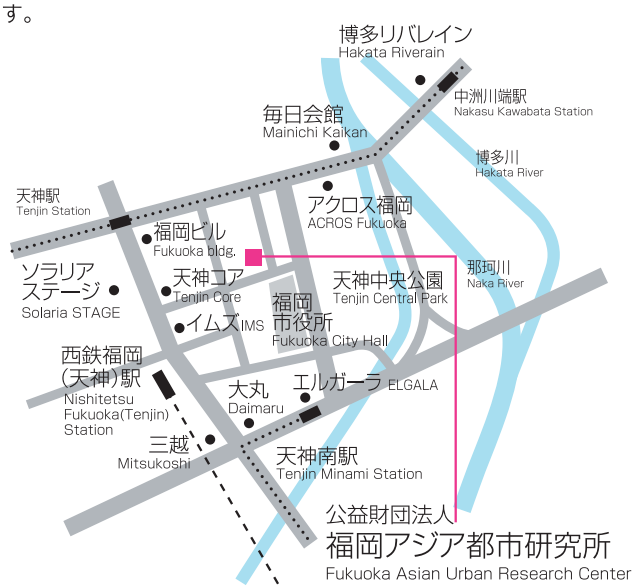
皆様のご利用をお待ちしております。

開室：月～金10:00～17:00

（土曜日・日曜日・祝日・年末年始・毎月最終業務日・資料整理期間（不定期）は休み）

蔵書検索：研究所のホームページから資料室の図書・資料が検索できます。

URC入口




URC
Fukuoka Asian
Urban Research Center

公益財団法人
福岡アジア都市研究所

福岡アジア都市研究所　情報誌 fu+(エフ・ユー プラス)第19号
2019年2月発行
■発行所
公益財団法人福岡アジア都市研究所
〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-1
福岡市役所北別館６Ｆ
TEL：092-733-5686　FAX：092-733-5680
E-mail:info@urc.or.jp
■編集責任者：中村　郁子
■編集：中島　賢一、足立　麻理子
■デザイン・印刷：松影堂印刷株式会社
■ライター：株式会社シーアール

URL:http://www.urc.or.jp

ISSN 1881-6541